

「九州国立博物館」見学記

昨年 10 月菅原道真ゆかりの地・大宰府にオープンした「九州国立博物館」を見学した。交通の中心である博多、西鉄天神駅から徒歩からわずか 30 分足らずという地の利の良さと、低廉な入館料（大人 420 円、高・大学生 130 円、中学生以下・70 歳以上無料、特別展示の場合は別途料金）、観光業界主催の割引プラン等も寄与して、開館以来盛況のようである。当初の来館者予想は、半年間 17 万人に対してオープン 1 ヶ月で早くも 26 万人を超えた。

建物本体は近代的なドーム構造になっていて、徒歩で訪れる見学者には 10 分ほどで西鉄大宰府駅から歩行者天国の商店街アーケード、天満宮参道を通して辿り着くアプローチが洒落ていて楽しい。入口から博物館本体へのアクセスは山中をぶち抜き、天井が七色に変化する‘虹のトンネル’をエスカレーターで昇る。山中をくり貫いたトンネル構造は、静岡県熱海市郊外の‘MOA美術館’のアイディア拝借と誤解されるほど酷似している。

100 年以上の歴史を誇る他の国立博物館（東京、奈良、京都）が美術系であるのに対して、地理的にアジアに近く、過去の歴史的交流から歴史系に拘ったと言われているが、一説には貴重な美術品はすでに前記博物館に占有され、入手が難しかったとも揶揄されている。

これから独自の路線を貫いて行くために、近隣の観光施設と一体化した観光開発、広域宣伝、新しい固有の目玉商品開発等が求められるが、その点で走査線 4000 本による立体的なフィルム画像「海の正倉院・沖の島」映写は、新鮮な印象を与える企画であり、もっと世間に PR してもよいと思う。

「国立博物館」は、独立行政法人となり新しい道を歩みだした。これから国民の文化に対する要望と期待にどう応えていくのか。その意味で新「九州国立博物館」は試金石となるであろう。